

和が家

ご報告

緩和ケア診療所いっぽの小笠原一夫理事長が第9回保健文化賞を受賞することになりました。

小笠原先生は、どんな状態にある人も理解して受け入れられ、ほっとした気持ちで最期を迎えられる。そんな場所が必要である。医療主体ではなく、暮らしを優先するとの理念のもと、和が家を設立しました。

「一人が最期に望むのは、ハートのある人が寄り添って、看取ってくれる場所」

小笠原先生の理念を大切に、和が家は頑張っています。

中庭の石

ハナミズキが植えられている和が家の中庭は、利用者様に寛いで戴けますようにと、ベンチが置かれ、季節の花が飾られています。その一角に、コブシ大の石が並んでいるのですが、実は、【心】という漢字になっています。

和が家が、最も大切にしているものが、中庭にハッキリと刻まれているのです。



今月の御写真



有難うございました

約2年、和が家の通信を担当させて戴きました森田です。次号から、和が家の正職である山本、鈴木に交代いたします。

タブー視されがちな死というものを、真正面から真摯に受け入れ、最善を尽くすように努力している和が家は、身内最良と思われてしまうかもしれません。私には大好きです。

今まで読んで下さり、有難うございました。了